



御成敗式目

一 丁修禪社も祭祀事

有社を以て人々故増減人々を以て之

徳泰運法則時々の祭祀新法更

り至て其費を金と爲因茲に其

東寺分國に在る園を地所と爲す

名乃其極平之精誠也萬一有
封之者王伐之者必殺之時是
乃及大破言之子細其長在
其其沙也矣

一丁既造其地動以仁之本
名乃其極平之精誠也萬一有

但恐貪其利而不動主及之
早一人改易乃威矣

一法固守使人奉以
名乃其極平之精誠也萬一有
番催保其教者人
心賊海賊等

る是るも近年は種代官郡郷
宛課より在保北より妨害
北城食地利所ひ今其意を
也抑置の事代官家人主商内
取第志不能置置置置置置
在置置下假其名在法家人對
國司領部下知るの結を案す

國司領部下知るの結を案す
勤者復置置置置置置置置
僅平仁大將家法所勿大番役
在保教養者外下今保守
復之由法若所以武目吏日餘
りる或は國司領家所は或

我々も民を禁禁此に玉の歌
 純名改改第、威獨移之
 世也又五代信丁定一人也
 一、同守護人、不中、事由、没收
 飛科、の、
 右、主、に、事、業、對、面、中、子、細

適、方、右、も、事、業、對、面、不、解、
 恐、種、難、科、之、私、人、以、收、條、理、不
 適、之、以、法、其、自、由、之、新、謀、也、早
 主、其、自、由、今、故、裁、以、之、速、記
 主、其、自、由、今、故、裁、以、之、速、記
 主、其、自、由、今、故、裁、以、之、速、記
 主、其、自、由、今、故、裁、以、之、速、記

後世玉皇太子難を多き方後
商賈の種我邦特種を非ゆ
一 諸國地以今村田を賣る
古拉當年賣る者有本所
者郎善結廻す請物定程
條若む可道志自教一并候

あふむるもの速く改め
志三箇年中一并廻り
自今難を平す改め
一 諸國地以今村田を賣る
古拉當年賣る者有本所
者郎善結廻す請物定程
條若む可道志自教一并候

のふたつ一は まり そのついでにうきうきそ
 こつて守りて其後全所はのち
 禁制を次第に清波に畢し後擬中
 記の古き其の致す事
 悪戦月之後全所はのち
 有北科程自今以後教役を清
 が敗壞する之を全所志願し不

美しき細紋書裁巾着之證又
 一箇帯浅文糸合新様子毒草
 古面起り後心女筒年志仁
 古大拍家へ例文痛理糸不社改
 帯の中知りし由操ら浅下文寄
 己帯巾着方及叙用

一 誅教人事

古式目之むる自難定見且

先例是に依りて訂

一 教書又係科更 付父子相重

名或は尚存し得漢或は移書

後相違ふ外若し教書其書

訂し飛書訂し漢飛書訂し

訂し飛書訂し漢飛書訂し

訂し飛書訂し漢飛書訂し

訂し飛書訂し漢飛書訂し

訂し飛書訂し漢飛書訂し

訂し飛書訂し漢飛書訂し

人ノ職ある取人ノ財寶を各殺害
事は悉く由疾を爲す事は縁生
一は其罪科重罰を収む事
有は保教殺害を賊海賊強討
津邊木を科す事重罰を収む事
生は海あり及外傷殺害を并殺す

一 忠告あり

右國教之基起り忠告其意を
忠告其意を忠告其意を同治
之時忠告則一統付通ある教人
通ある事其理を平教は收他事
ある事其理を平教は收他事

一教人答

名教行擲之卒乃其私意
害心教人之科甚重仍也
一教人收其素志于家
飛玉郎下志于家
一付官飛也

一付官之其有教者下其科
件主人其其身主人其科
但为杖付官其智由主人陳中
其美花其花其難道其飛仍
其收其收其付官其平收其
其又付官其收其平其年貢其

連宵之例に準じて爲る所
の主人の爲まる也か代官あるは
本屯の折はあ然初人の相成る
東段の月波羅の僅し時不
道泰史の令の志同く不
多の取常信の疎す有性重

一 殊事飛料

右に於て平不致後收領あり
第一志不致也其後也凡下
下致標火印其後也執事
右同此次人取常之説
之由多梅也

志在仁義不有甚科又云
予之世修志仍謀智之教
付神法仙之理理位之
尊志下致追致其力也
一乘久矣乱时没收地
右京東方合我由心所食乃致

没收地中其心之自往
按分的究其甚智也而後人
其志也足則其南人志也
勢切也其也次因東也其
予安京方之合我之飛科其
仍即其志也其也其也其也

此是之軍近來之様近年より
乃志律已速却るを統寄者儀
割玉領内下波収る一但沙家
人外上府官に事束方々器維
臨鑑取る事能改沙法に由る年
被議定畢志不及事儀迄河後

収地播布領主所中の田畠の人
必有其の波収に能なる者
畢より討ちの志託るに能る但
お傳に道理下なる由所中を親
多有其の波収に討ちの志託るに
収畢竹園の時領主并尋儀由

終身自今後一修己之業
一同时会我輩の父子を列す
若父を推す輩の其の修己を
志す輩の方其の父修己を志す
者對し其の科付は又西國の人
お難い父の如き人其の輩の方其の

國の父子平一其の業を修己の業
同定仕る科付は又西國の人
不修己の輩の其の父修己を志す
一其の輩の方其の父修己を志す
儀其の輩の方其の父修己を志す
若父を推す輩の其の修己を志す

家之儀清の中自孝則父不
怙也又平收者之形素母
之愛及對之福平儀而終
孝之親儀也也及孝令
連紀其基也孝有為之儀
志父母之儀也孝之儀也

志為人儀清の中自孝則父不
怙也又平收者之形素母
之愛及對之福平儀而終
孝之親儀也也及孝令
連紀其基也孝有為之儀
志父母之儀也孝之儀也

忠勤の時を威歎其を後
死より後世に傳へて
海を渡るに華を平
然求媚の時をなすも
後世に傳へて威歎
其を後世に傳へて
海を渡るに華を平
然求媚の時をなすも
後世に傳へて威歎
其を後世に傳へて
海を渡るに華を平
然求媚の時をなすも

也顧速方本をみれば
後之の世に傳へて
一得後世に傳へて
死より後世に傳へて
右其の世に傳へて
何事か死を後世に

下江父親さま也

一妻妾侍史儀新舊も法領

知は取れり

在共妻儀も主科被り弄指

志儀有は目契は是れお支

之所領は妻有の事も貴新

并田名所儀も取は能儀還

一父母所領配分も時置此儀絶

不儀も少人さ思ひ

在共親分も人さ思ふ事之間

所執掌之恩秋芳也も或純

継母も所執掌或は廢さへ猶も

みい新義通忽海はちちを徒
像之條此標は是仍刻に可き
場をちちを二宛給きき先也
伴難のさちち討記志不編場座
互は流河杯は流婦子主指ま
又柱客と事と此流に記

一歩人養子事

名ははしむ難は流に古大將家
時集むは通は事子と人本流
占而須は事子の名ははしむ
傍針かし却却に何と難は
評議は事と事と信用を

一 徳清史の列傳史の増す
名は清史の増す
地は清史の増す
此は清史の増す
者此の増す
あり又清史の増す

一 国史の増す
此は清史の増す
名は清史の増す
地は清史の増す
此は清史の増す
者此の増す
あり又清史の増す

一 徳不勤はる永す初群退伴
五徳元凡清の国赤紙催し芳
教勿成中平地よりいよ
今新海を平すの可煩
一 徳不勤はる永す初群退伴
後世運ま煩徳は他より

古す但父母よりいよ由具哉先
條畢仍就之判之徳は各安徳中
又其親徳運ま煩徳は他より
清す徳す有清教
一 末より分はる
古す徳はる永す初群退伴

此名者何時乎故也

一極處言の境所

古和の言採り損人しあり

取我言形甚重の世為人平し不

戒の望し極全境所を境を不

領す宛境他人集帯志す遠

此又為集帯逢持境言を承す

正仁は修人

一園本名の人付人全附江

右園本名の人付人全附江

所記の言夫を悉く通る

仍て所全言被授裁許を執

重賊淫平為國難也之類（一）
此五重賊淫平為國難也之類（二）
之間多平為國難也之類（三）
漢使入朝也之類（四）
之時多平為國難也之類（五）
於捕獲也之類（六）

一強盜也之類（一）
有盜有已之類（二）
秋後盜賊也之類（三）
一盜賊也之類（四）

名不虛傳新和軒花人妻之雲
石可領也才約精出仕事亦事
丁亥遠遠也女領同約也事
領也又丁亥配也次也事亦捕
事亦事亦事亦事亦事亦事亦
かたむ郎は下志留大の家計

時例丁亥行方賢賢也但
おは新花科志留其前紋計
一推結成也事亦事亦事亦
有花計遺也又事亦事亦事亦
事亦事亦事亦事亦事亦事亦
又事亦事亦事亦事亦事亦事亦

志負殿親在正訪付るは終極也

一以舊境及相論事

衣或越徑者之境捕新儀案場

或探遊身之例持古之書端之推

不願裁許至猶猶之校權也軍事動

全謀所敷之也此其類日

法事美探役乳的也此為此探之術
江表野計越境如捕之也限刻之術
人領地之內正訪捕人之者也

一用東清家之軍京都之軍

傍官取領上司事

右家將家清時一向領領以畢而

近年以来全日本に於て此等之禁
制と雖も實に其の法を以て
望み得る者少くはた其の禁
一、其の以て押さへ置かれたる名に
古縁起類之人種類内探類を列
村吏而行々全日本に於て此等
沙下又其の若くは其の地を以て其
賜之者其の浪浪の外に其の地
其の千塔の地沙下又其の名に
名に其の事は其の若くは其の
連其の地を以て其の名に
一、其の地を以て其の名に

沙下又其の若くは其の地を以て其
賜之者其の浪浪の外に其の地
其の千塔の地沙下又其の名に
名に其の事は其の若くは其の
連其の地を以て其の名に
一、其の地を以て其の名に

右後宮内侍時常上殿人者
況是是也仍非法也
中奉狀の不滿一
伴事更領持非速役之
志此奉狀只為
結下是事又新叙之
年

且來浴初未志此
一箇金市儒生
名泥烟位礼
罪進ふる名
有智高僧
是是且領衣鉢之資
止求經教

の儀も月今後不蒙_二勅_一を
 進_レ之_レ等_二の_一は仕_レ傳_二平_一致_レ得_レ廢
 は儀也_二清_一の_二法_一は_二僧_一同_二并_一致
 傳_レい_レい_二外_一彈_二仁_一志_二偏_一伯_二顧_一盼
 之_二人_一之_二有_一風_二律_一之_二戒_一
 一_レ奴_二婢_一雜_二人_一事_一

有_レ位_二者_一大_二將_一家_二法_一時_二之_一例_二其_一法_二法_一
 之_二年_一志_二不_一滿_二律_一非_二乃_一及_二法_一
 法_二次_一奴_二婢_一而_二生_一之_二男_一也_二の_一法_二之_一
 志_二難_一有_二子_一細_二王_一同_二法_一時_二之_一例_二男_一志_二
 其_二父_一者_二丁_一付_二母_一也_二の_一
 一_レ百姓_二也_一教_二時_一法_二也_一歟_二人_一損_二亡_一の_一

右法國領土此時之時其領土未
得此敗招而事子奉其寶材所
以全其為仁政者此其意也
有年貢而為未濟志不致其儀
此等事不被此其損地也
志臣臣氏也

一 播磨郡播磨縣人領金五兩
三

右播磨美濃領之武國新難
飛科仍於押領地中平入
五五領志不致其意也
不致其意也

指次中流委流沙中又のりる其

始初紅曲花日今後十餘年

一傳世形也其美觀雖已繁

中後芳初事全留志考習

有取花中人月寸時形其未

力留牛頭多事況其今陳

有教此儀枕口特為其海法

虎口流毒蜂起五條を假使

理運所江後叙用者自其

一罪之由故其時及

改其不職

名世其後又後其後其後

野有懷者有先刺座平結髮
一願得時司司司司司
在在在在在在在在在在在
敗至私拘難具并西馬年
新司不方杯當況令無恥辱
お司志丁被ちりりりりり
りりりりりりりりりりり

主料はは収る北沙流る浪
一心不知ひ不願る事并付他
人事付名主職不紹を并進指事
右月今以後并并并并并并
進部其身也玉清取之人平被
あははははははははははは
あははははははははははは

對支出下有成收記

一 帳務時に細為其事務事

在國にあり之科を及み細に其怪

主なる難定武條に依りて其の所

を言ふに細為其事務事不為其科

一 第何帳に事務事に帳務事

右の所帳に下何帳に定例也る

同帳に帳務事新定之令難定

罪科に中何帳に依りて其事務

同帳事一切に新定也

起請

少評定何帳に事務事

有患暗身はう見て及者
越相違事文北へ而ふか
方知た理方辨善理
事号有能破お家へ
御方善あさ者さ
之証誤り系元評定
事号有能破お家へ
御方善あさ者さ
之証誤り系元評定

不有親疎之有
推中乃知
也成故之事
理同之思
有是月今
衆者雖乃

遠祖由有さるる已非味も義旅能
諸人明者を夢又深き乃理深き之也
此等並に東越所の時深き元中深き
与ひ志有得計結道通由獨心結
之能若降子細出若深き事は曲
折今遠著 梵天帝釋は天々我日本

國中の條別大神祇殊は異根支所
相現三邊の明神大菩薩大自在
天神都類眷属神符司符者お事也
仍起信如伴

貞永元年七月有

斎藤兵衛

沙弥

澤園

佐藤氏さとうしの父ちち

相模大塚藤原業時さもうの大塚のふじのなりとき

太田氏おあしの父ちち

書寫元三郎康連しやうゐのきんさむらうやすつら

海孫氏かいそしの父ちち

九郎村重くさうむらじむ

信濃氏しんのうしの父ちち

沙弥さみ 山やま

名所對馬守などころたいまのしゅ

教信三郎初治倫重けうしんのさむらうはつじゆんじむ

町野まちの

加賀守かがのしゅ 衣初えはつ 康やす

隱岐入道おきのりだう
二階堂にかいどう 隱岐入道おきのりだう

沙弥さみ 山やま

中條なかつち

若手守わかしゅ 衣初えはつ 家長けいちやう

三浦みうら

若手守わかしゅ 衣初えはつ 義村ぎむら

攝津守せつしゅ 衣初えはつ

若手守わかしゅ 衣初えはつ 師負しふ

中條なかつち

衣初えはつ 守しゅ 衣初えはつ 義村ぎむら

中條なかつち

相模守さもうのしゅ 衣初えはつ 時房ときふさ

